

秋田新幹線と沿線地域の 持続的発展プロジェクト アクションプラン (令和 7 年度実績)



令和8年3月

秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクトチーム

令和 7 年度のアクションプランの取組について、その実績を報告します。

アクションプランにおける具体的な取組

1 秋田新幹線の日常的な場面における利用の喚起及び拡大

秋田新幹線の沿線地域は、若者の流出や出生率の低下に伴う深刻な人口減少に直面し、高齢化が加速しています。

一方で、新幹線等の速達性の高い交通機関は、時間当たりの移動可能距離(範囲)を広げ、居住地を変えずに様々な場所に通勤・通学することを可能にするほか、買い物、通院、近隣への出張や観光などの利便性を向上させる“日常の足”としても利用できるものであり、多様なライフスタイルの基盤となる秋田新幹線により、当地域の定住人口が増加する可能性を秘めています。

また、広い県土を有し、マイカー通勤や親の送迎による通学が定着している両県において、環境意識の高まりやガソリン価格の高止まりなどを背景として、日常的な場面における新幹線の利用には更なる定着の余地があるほか、通勤負担の軽減が図られることによる労働生産性の向上など、定着することによって企業側のメリットも大きいと考えられます。

こうした可能性を最大限に伸ばし、沿線地域における多様なライフスタイルの定着や通勤圏の拡大、地方の持つ「交通の便が悪い」というネガティブイメージの払拭を図るため、秋田新幹線の日常的な場面における利用の喚起・拡大を図ります。

事業内容	事業期間		
	R7実績	R8	R9
①短区間利用の提案や通勤・通学等に対する助成等を行う、秋田新幹線の日常利用に係るキャンペーンを展開します。	盛岡市バスの日まつりへの出展		

②秋田新幹線の日常利用を促すためのポスターやリーフレット等の作成・配布を行います。	ポスター、ステッカーの作成・配布		
③日常的な場面における秋田新幹線の利用実態、利用者の意識の変化等に関し、調査を実施します。	アンケート1,777件 回収(別紙参照)		

- ① について、盛岡市バスの日まつりに出展し、ブース来訪者424名に日常利用を呼びかけるPRを行いました。
- ② について、ポスター・チラシ・ステッカー・ウエットティッシュを作成し、周知をしました。ポスターは200部制作し、秋田県内の主要駅や岩手県内の秋田新幹線沿線駅、道の駅などの公共施設等に掲出しました。
- ③ について、合計1,777件の回答を回収し、分析をしました。(結果は別紙参照)

(啓発ポスター・チラシ)



(ステッカー)



(ウエットティッシュ)



2 交流人口の更なる拡大に向けた秋田新幹線の活用

人口減少が進む中、沿線地域の社会・経済活動を維持していくためには、交流人口を拡大し、外からの人的・物的資源を沿線の活力として取り込んでいくことが重要です。

秋田新幹線は、首都圏や仙台などの大都市圏とつながっており、他の路線とは異なる役割や発展性を有しています。

沿線の文化やプロスポーツチームなどの多様な資源を最大限に活用しながら、秋田新幹線の価値を見直し、交流人口の更なる拡大を図る取組を推進します。

事業内容	事業期間 (赤線は新規事業期間)		
	R7実績	R8	R9
①秋田新幹線を利用した秋田・岩手両県の観光施設や文化施設等を訪れる旅行商品の造成等について支援します。		→	
②秋田新幹線を利用した、プロスポーツにおけるアウェイツアーリズム等を推進します。	秋田ノーザンハピネッツ 仙台戦でのPR	→	
③芸術文化に親しみながら秋田新幹線の利用促進を図るため、車内での公演等を実施します。			→
④駅舎内等で手話パフォーマンスなどのPR動画等を放映することで、秋田新幹線のイメージアップを図ります。	未実施	→	→

- ① について、令和8年度以降、秋田新幹線を活用した沿線地域の観光施設や文化施設などの誘客コンテンツを活用した旅行の推進について検討してまいります。
- ② について、秋田ノーザンハピネッツ仙台戦において PR を行いました。令和8年度以降も引き続きプロスポーツにおけるアウェイツーリズムについて取組を推進します。
- ③ 及び④について、令和8年度以降、秋田新幹線車内での公演等、秋田新幹線のイメージアップや利用促進につなげる施策について検討してまいります。



(令和7年12月10日秋田ノーザンハピネッツ仙台戦でのPRの様子)

3 秋田新幹線を活用した鉄道以外の分野との共創の推進による沿線地域の活性化

秋田新幹線は、社会・経済情勢が目まぐるしく変化していく中で更に深刻化すると思われる様々な課題に対しても、それを解決するための潜在的な機能を有しており、多様な分野の振興に資する幹線鉄道として、その役割は重要な要素となっています。

また、将来にわたって利便性・生産性・持続可能性が高い交通機関として発展するよう、JR東日本をはじめ沿線自治体や商工団体などの関係者が、緊密に連携・協力していく必要があります。

このため、農業・教育など鉄道以外の分野との共創による新たな利用方法を模索しながら、秋田新幹線を効果的に利活用することで沿線地域の活性化を図るなど、両県で連携した取組を推進します。

事業内容	事業期間 (赤線は新規事業期間)		
	R7実績	R8	R9
①ワーケーションやリモートワーク、スタートアップ企業等の方に地域の魅力を知ってもらいながら、秋田新幹線の利用を促すための取組を実施します。	秋田 de 副業マッチング 交流会 in 秋田 9名		
②秋田新幹線の荷物輸送サービス「はこビュン」を活用し、農産物や加工品の販売拡大や輸送ルートの構築等を図ります。	えだまめ他		
③将来的に秋田新幹線の主な利用者となる児童・生徒が、フィールドワーク等で秋田新幹線を利用する場合に支援します。			
④秋田新幹線を利用してインターンシップ等に参加する学生に対して支援します。	こまち就活 익스프레스 46名		

⑤秋田新幹線を利用したゼミナールやスポーツ合宿等に参加補助事業で1団体活用する学生に対して支援します。



- ① について、秋田県地域産業振興課主催の「秋田 de 副業マッチング交流会 in 秋田」において秋田新幹線を利用しました。
- ② について、「はこビュン」を活用した秋田県産えだまめの販売が、2 日間にわたり都内で行われました。その他、きいちご、ダリア、あきたこまち、かつの北限の桃、梨、西馬音内そば、きりたんぼ、三関せり、白神まいたけの輸送実績もありました。
- ③ 令和8年度以降、将来的に秋田新幹線の主な利用者となる児童・生徒が、フィールドワーク等で秋田新幹線を利用する場合の支援について引き続き検討してまいります。
- ④ について、こまちの一部車両を会場とした就活イベント「こまち就活エクスプレス」を行い、首都圏や仙台圏の大学等に通う学生 46 名が参加しました。
- ⑤ について、秋田県スポーツ振興課が実施する「スポーツ合宿推進事業」で 1 団体の秋田新幹線の利用がありました。

秋田県産えだまめ

1袋 580円(税込)
9月5日(金)・6日(土)午後3時45分販売開始予定



<輸送列車> 秋田駅 午前10時07分発 秋田新幹線こまち16号 → 東京駅 午後2時08分着(予定)



秋田のえだまめは、夏だけでなく秋も旬の味が楽しめるのが特長です。
秋田の夏は、昼と夜の温度差が大きいため、糖分が蓄えられることで、甘くておいしい枝豆が作られています。9月になるとより一層寒暖差が大きくなることから、食味と風味がさらに増します。
※写真はイメージです。

(新宿高島屋プレスリリースより抜粋)



(新幹線車内でのイベントに参加する学生と企業担当者)

秋田新幹線と沿線地域の持続的発展

プロジェクトアクションプラン

令和 7 年度実績

2026年(令和8年)3月

秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクトチーム

(事務局)秋田県観光文化スポーツ部交通政策課

〒010-8572 秋田県秋田市山王三丁目1-1

TEL:018-860-1282

FAX:018-860-3879

E-mail:koutsuuseisakuka@pref.akita.lg.jp